

APAQG釜山会議について

1. はじめに

2015年9月17日～18日に韓国の釜山市にて、APAQG (Asia-Pacific Aerospace Quality Group) 釜山会議が開催された。JAQG (Japanese Aerospace Quality Group (航空宇宙品質センター)) は、アジア・太平洋地区におけるリーダーとして、IAQGに提言することを基本戦略として活動しているが、以下に今回の会議について報告する。

2. 会議の概要

(1) 今回のAPAQG釜山会議には、アジア太平洋地域の航空宇宙関係20組織から約40名が参加した。今回のAPAQG会議では、日本の1社を新たにAPAQG協賛メンバーとして迎えた。又、1月に実施したタイでのAPAQGプロモーションを通じ、タイから1社がゲストメンバーとして参加しており、

APAQG活動の広がりを確認することができ有意義であった。

(2) 会議ではIAQGの最新の活動状況（規格要求、国際航空宇宙認証制度管理、製品及びサプライチェーン改善、要員能力、国際スペースフォーラム、関係強化戦略）についての情報の共有を図るとともに、IAQGマドリッド会議で、APAQGセクターからのIAQG投票メンバーを6⇒7とする提案（候補は中国 COMAC社）を行うことを確認した。

(3) 次回IAQGマドリッド会議に向けてAPAQGとしての意見集約を実施した。又、この会議と併催された2016年の次期9100規格改正に向けたAPAQG 9100改正検討チーム会議では、APAQG内の情報共有、意見



評議會の様子



評議会の様子



評議会後の集合写真（APAQGメンバ）

調整及びIAQGへの対応協議などが図られ、次回IAQGマドリッド会議に向けて意見集約を図ることができた。

APAQG釜山会議の参加国、参加組織は以下の通りである。

日本：MHI、KHI、FHI、IHI、SJAC、海外物産

中国：COMAC
 韓国：KAI、KAL、Hanwha Techwin、KAIA、
 LIG Next1、KARI
 シンガポール：DSO National Laboratories、
 Rolls Royce、UTC
 フィリピン：Moog
 タイ：Triumph Aviation Services Asis

3. 会議内容

(1) 評議会

(a) 主要な審議結果

評議会での主要な審議結果は以下の通りである。

- ・IAQGマドリッド会議で、APAQGセクターのIAQG Voting Member 枠を6⇒7に増やすことを提案する。(候補は中国COMAC社)
- ・日本の海外物産社がAPAQG協賛メンバーとして承認された。
- ・APAQGの会計報告に関し、APAQGセクターでのプロモーション活動費をIAQGに要求することで、2016年予算案が承認された。
- ・2016年春のAPAQG会議は、3月8日～11日に日本(名古屋)で開催することが確認された。
- ・2016年秋のAPAQG会議開催国について、中国(珠海市)開催が確定した。

(b) 各国のステータス報告

評議会での各国のステータス報告は以下の通りである。

日本：JAQG幹事長(小出 芳夫(IHI)(敬称略))より、JAQG活動状況が報告された。

JIS Q 9100規格の取得会社は573社、JAQGメンバーは369社(2015年6月末時点)。

2015年の活動方針は、

- ・2013-2018年の活動計画に基づき、JAQG活動の促進を図る
- ・強固なQMS構築の推進
- ・ステークホルダーとの協力関係の継続的強化

である。このうち、強固なQMS構築では、JAQGが提案した4つのガイダンス文書がIAQGに採用された。

中国：CAQG(China Aerospace Quality Group)の活動状況が報告された。

CAQGは正会員11社、一般会員は3社増え57社で構成されている。CAQG会議(春)では、2015年の活動方針が決定された。

- ・CAQG活動手順の最適化、改善
- ・工業会でのCAQG認知度の向上
- ・WG活動を促進し、より活発にAPAQG/IAQG活動に参画する
- ・CAQGメンバー組織内でベストプラクティスを共有する

CAQGには、5つのWG(規格要求、要員能力、SCMH、パフォーマンス、Nadcap)があり、IAQG規格に対応したサブWGが組織されている。

SCMHに関しては、中国国内の展開のため、中国語への翻訳を進めている(80%が翻訳完了)。

韓国：自国企業の認証は、主にAS9100/9110/9120によっており、韓国のAS9100認証取得会社は266社(半年で20社増加)、また、AS9110とAS9120認証取得会社はそれぞれ18社、3社となっていることが報告された。

シンガポール：シンガポール国内の認証状況は、AS9100認証取得会社は108社、AS9110とAS9120認証取得会社はそれぞれ16社、36社となっている。シンガ

ポールの航空宇宙工業会（AAIS）の傘下に設立されたSAQG（Singapore Aerospace Quality Group）は、2015年8月に第2回目の会議を開催した。

(c) IAQG戦略検討ワーキンググループ傘下の分科会の活動報告

評議会では、各分科会の個別報告が行われた。（ ）内は報告者（敬称略）である。

このセッションはIAQG会議に参加していないAPAQGメンバーに最新のIAQGの情報を提供し、IAQG活動の成果を共有するという側面を持っている。今回は、2015年4月に開催されたIAQG成都会議の結果及びその後の進捗を中心に報告された。

- 規格要求分科会（白井 達矢（KHI））
- 次期9100規格（河本 正博（MHI））
- OPMTチームの活動報告
（嶋貫 雅一（FHI））
- 製品及びサプライチェーン分科会
（渡邊 靖（MHI））
- 要員能力分科会（朝倉 崇顕（IHI））
- 国際スペースフォーラム
（柳川 祐輝（MHI））
- 防衛当局関係強化分科会
（河本 正博（MHI））
- MRO関係強化/9110
（David Tan（P&W Singapore工場））

(d) その他のトピックスの紹介
以下のトピックスが紹介された。

- 新APAQG協賛メンバー紹介
（菅野 義就（海外物産））
- マレーシア クアラルンプール市で開催
したAPAQGプロモーション
（前畑 貴芳（SJAC））

4. おわりに

IAQGは、世界共通の航空宇宙品質マネジメントシステム規格（9100規格）を初めとする関連規格の制定に加え、“On Time, On-Quality Delivery（OTOQD）”を効率的に達成することを目標に活動を展開している。

アジア太平洋地域にIAQG活動を広めかつアジア太平洋地域の意見をIAQGに反映させるためには、APAQG活動を活発化させ、多くのアジア太平洋地域のメンバーが継続的にAPAQG会議並びにIAQG会議に参加することが重要である。中国におけるCAQG設立、シンガポールSAQG設立に続き、韓国でも設立の動きがあり、アジア各国の活動も活性化して来ている。

今後もIAQGは、APAQGのリーダーとしてAPAQG活動を牽引し、日本の意見をIAQGに提言する活動を推進する所存である。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター 事務局 部長 前畑 貴芳〕